

21 世紀高野山医療フォーラム講師紹介

国際看護師協会（ICN）会長

日本看護科学会理事長

前日本看護協会会長



南裕子氏はこのたび台湾で開催された国際看護師協会（ICN）の会長に選出されました。ICNは現在129カ国が加盟しており、その会長は4年毎に加盟各国の看護協会長の中から選挙で選ばれ、日本人が会長に就任するのは初めてとなります。

南裕子氏は、本学看護学科で助手・助教授として教員をされたご経歴をお持ちです。その後、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）に留学され看護学の博士号を取得され、後に同校より最も貢献した同窓生に贈られる栄誉ある賞を授与されています。

帰国後は、聖路加看護大学看護学部教授、兵庫県立看護大学学長、さらには兵庫県立大学副学長を歴任され、看護界に多くの優秀な人材を輩出してこられました。その間、1999年から6年間は、日本看護協会長を兼任され、看護技術の向上や看護職者の役割拡大のための国内政策への提言やWHO看護・助産世界会議のメンバーとして世界の保健医療政策の提言など、保健医療の発展のために国内外に多大な影響力を發揮してこられました。

また、精神看護学領域の研究はもとより看護師の倫理や災害看護等の研究にも従事され、阪神淡路大震災の直後には、日本災害看護学会を設立されるなど、教育・政策・研究の各分野において幅広くご活躍をされています。

これからの4年間、南氏が世界の看護職のリーダーとして会長職に就かれることは日本はもとよりアジア諸国にとっても大変意義深いこととあります。

これまでの南氏の実績に裏打ちされたリーダーシップ力が一層發揮されますこと祈念すると共に、今後のご活躍を心から期待しております。

研究分野・研究業績等

<p>研究分野 (研究課題)</p>	<p>災害看護に関するネットワーク形成とその効果について リエゾン精神看護の効果に関する研究、看護における概念の検証</p>
<p>研究業績</p>	<p>野嶋佐由美と共監修 ナースによる心のケアハンドブック 照林社、2000 南裕子編 基本的セルフケア看護「心を癒す」講談社、1996 南裕子監修 地域精神保健活動論 メヂカルフレンド社、1997 南裕子編 「阪神淡路大震災—その時看護は」日本看護協会出版会 1995 南裕子他「看護における研究」日本看護協会出版会改訂版 1999 南裕子他「看護系大学における研究の倫理審査体制の試案」 日本看護科学学会誌 18(1):60-70,1998 南裕子「災害看護学構築に向けての課題と展望」 看護研究 32(3):177-185,1999</p>
<p>これからの研究の抱負</p>	<p>災害看護の全国ネットワークの構築とその検証をこれからもかなり長い時間かけて行いたいと考えている。また、専門看護師の認定および教育制度の開発に参画してきた者として、専門看護師の評価に関する研究に継続的に関わっていききたい。さらに、看護職に期待されている「やさしさ」の意味を理論的に探究すると共に臨床的な意味について探っていききたい。</p>
<p>専門領域での活動内容(学会、研究会、講演活動等)</p>	<p>1992-2000 厚生省医療関係者審議会専門委員 1997-2000 厚生省医療保険福祉審議会制度企画部会委員 1997-2000 厚生省科学研究費補助金企画評価委員 1997-2000 日本看護学教育学会理事長 1999-2000,11 兵庫県 県立大学検討懇話会 1993-現在 WHO Global Advisory Group on Nursing and Midwifery, 委員 1995-現在 兵庫県精神保健福祉審議会委員 1999-現在 日本看護協会会長 1999-現在 日本災害看護学会理事長 1999-現在 日本生命倫理学会理事 1999-現在 日本看護科学学会評議員 2000-現在 兵庫県阪神淡路大震災復興計画後期5カ年推進プログラム策定委員会委員 2001-現在 厚生労働省医道審議会 保助看分科会 1995,9 第2回日本看護科学学会国際学術集会会長 1998 第10回日本生命倫理学会年次大会会長 1999 第1回日本災害看護学会年次大会会長</p>

